

| 【学校教育目標】  |  | 〈重点目標（中長期的目標）〉   |   |
|---|--|--|---|
| 幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する |  | <p><b>【ひとづくり(豊かな情操を育む人間形成)】</b></p> <p>1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。</p> <p><b>【ものづくり(付加価値の創造)】</b></p> <p>2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。</p> <p><b>【学校づくり(充実した学びの場の構築)】</b></p> <p>3 安心・安全な学校(いじめ・体罰のない)をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。</p>   |   |
| 領域  | 項目   | 具体的な教育活動 (R05)   | 具体的な教育活動 ( )  |
| ひとづくり   | 1 自他を大切にできる心の育成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な教育活動を通して自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることにより、命を大切にできる教育を推進する。</li> <li>「いじめ防止基本方針」を定め、「いじめ」を許さない学校づくりを推進し、いじめ被害の未然防止・早期発見・迅速な解決を目指す。</li> <li>メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。</li> <li>クラブ活動や生徒会活動に積極的かつ自主的に取り組む中で、周囲と円滑な人間関係を築き、また、他人を思いやる心を持った豊かな人間性を育む。</li> <li>生徒会として、生徒自身が積極的に活動に取り組めるよう行事や日々の委員会活動を計画・実施する。その活動を通じ他人を尊重する態度や思いやりの気持ちを育てる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>映画「チョコレートな人々」の鑑賞を通し、心や体に障がいがある人や不登校経験者など多様な人たちへの理解を促した。【キャリア学習係】</li> <li>代々の生徒会役員たちは、新型コロナですべての活動が制約を受けていた時期から工夫を重ね、新しい取り組みをしてきたが、コロナ以前とまったく同じというわけにはいかなかったが、行事、イベントの新たな企画について、ある程度目処が立った。ただ、知識を持った特定の生徒・職員がいらない体制は改めなければならぬ。【生徒会係】</li> <li>人間関係がうまく作れない生徒が増えてきたように思われる。いじめの発生はいつでもあり得るとして、今後も未然防止、早期発見に努めていく。ネットを介したコミュニケーションが一般化しており、それにかかわる問題行動が多くなってきている。SNS等に起因するいじめ事案は表面に表れにくいので、常に生徒の様子に注目し変化を捉える必要がある。【生徒指導係】</li> </ul>   |
|   | 2 基本的な生活習慣の確立  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・髪型などに対する生徒自身の意識の向上と、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の充実を図る。</li> <li>生徒会役員のあいさつ運動(4月・12月)。生活委員会の交通安全運動（4月）や身だしなみを整えさせる活動（5月・6月・11月）で全校生徒に働きかけ、基本的な生活習慣を身に付けさせる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員によるあいさつ運動は、1月の就任当初と、4月の新入生入学直後の2度実施できた。4月当初は1年生からあいさつが返ってくるのが少なく心配したが、日頃の学校生活の中で習慣が身につく、あいさつをすることへのきっかけ作りになった。制服については議論ができず、次年度継続して考えていきたい。【生徒会係】</li> <li>大半の生徒は落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる。授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導等を必要に応じ計画的に実施してきたが、身だしなみや挨拶等に改善の余地がある。【生徒指導係】</li> <li>日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・髪型などに対する生徒自身の意識を向上できるようにし、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の充実を図った。生徒会本部役員や朝のあいさつ運動や、生活委員会の活動を通して規則正しい生活を送ることができるよう全校生徒に働きかけた。【生徒会係】</li> </ul>   |
|   | 3 得意分野の伸長(卓越性の伸張)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。</li> <li>課題研究をはじめ様々な授業で積極的に外部との連携をはかる。</li> <li>地域人教育の授業を通して、全学年の生徒が自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断して行動できるよう指導する。</li> <li>授業・クラブ活動・行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動して、問題を解決する能力を身につけさせる。</li> <li>キャリアデザインにつながる資格・検定・コンテストの情報提供を行い、資格取得に向けて生徒の要望や実態に合わせて講習会や補習授業を実施する。</li> <li>終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格検定の紹介と日程をクラスに掲示するなどの工夫を行い、資格取得に向けての意識づけを強化する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域人教育において地域の方との関わりを持つことができ、個々のコミュニケーション能力の向上ができた。【商業科】</li> <li>社会基盤工学科の課題研究では「松川おいでなしプロジェクト」において長野県建設業協会及び長野県測量設計業協会と連携し課題に取り組んだ。【社会基盤工学科】</li> <li>検定等日程一覧を作成しHRに掲示し、生徒自らが積極的に資格取得へ取り組めるようにした。学期ごとの終業式において、難易度の高い資格取得や検定合格者の表彰を教室配信により行った。講習会や補習授業は、資格取得や基礎学力向上を目的に、該当学科・教科により計画し実施した。【キャリア学習係】</li> <li>原動機部では、7月に三重県の鈴鹿サーキットで行われた2023 Ene-1 SUZUKA Challengeにおいて、2部門で総合優勝、3部門で高校生部門1位に入賞し、茂木・豊橋・大阪の各大会でも優勝、入賞することができた。【原動機部】</li> <li>半世紀ぶりに全国大会に出場することができた。全国大会に出場するために地元の方、多くの企業からサポートをいただき、その中でさらに地元注目される学校になったと実感できた。さらに県内外の私立に負けないように工夫をして生徒募集や学校の特徴づくりにさらに貢献していきたい。【ラグビー部】</li> </ul>  |
| ものづくり   | 1 基礎学力の定着(高校教育の共通性確保)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣を身につけさせ、学ぶ意欲の向上を図る。</li> <li>家庭学習の習慣を身に付けさせ、結果として資格取得に結び付ける。</li> <li>地域社会の課題に関心をもち、課題解決学習を通して学び続ける力の育成を図る。</li> <li>ICT機器を活用した学習支援態勢の構築を図る。</li> <li>月に一度HRで活用できる道徳教育ワークシートを配布、様々な社会的課題や地域の問題についての知見を深め、関心をもって問題解決に向かおうとする態度を養う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>測量実習や製図において、PDCAを用いて課題に取り組む、自己評価や振り返り学習をして、学習習慣の定着・学ぶ意欲の向上を図った。【社会基盤工学科】</li> <li>インターンシップを実施し、就労感を育み将来に向けた学習活動の促進ができた。道徳教育ワークシートを各月に発行した。LGBT等に関する内容を中心に人権・道徳教育の課題解決に対する考えを養った。【キャリア学習係】</li> <li>ICT機器の活用については、重点的に取り組む必要がある。タブレット活用の授業において、タブレットを持参するよう呼びかけをしたり、充電設備の設置などの対応が必要である。【機械工学科】</li> </ul>   |
|   | 2 専門力の伸張   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取り組む。</li> <li>実験実習や課題研究をとおして知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を向上させ、専門分野の実践的な力をつけるとともに、専門分野への探究心を育む。</li> <li>「高度な専門性」を伸長させるためにコンソーシアムや地域の企業等と連携し、講習会や講演会を実施する。</li> <li>先端技術の見学で見識を深めたり、課題研究でSDGsの17の大きな目標に関するテーマを取り上げて学習を進めるなど、視野を広げることでキャリア教育の充実を図る。【機械工学科】</li> <li>県内の研究機関の見学や大学の出前授業をとおして電子機械分野の先進的な研究開発に触れ、専門性を高めるとともに創造性や将来への希望を喚起する。【電子機械工学科】</li> <li>企業で活躍する本校卒業生を講師に招き、進路講話や技能五輪の技術披露等を通してより高い目的意識を持たせる。【電気電子工学科】</li> <li>複数の地元測量会社から卒業生を講師に迎えて最新測量機器の講習会を開催し、専門技術に対しての見識を深め、学習意欲を喚起する。・資格試験対策の実施や、地域の企業団体に協力いただき資格取得に向けた意識向上とキャリア形成を図る。【社会基盤工学科】</li> <li>建築士会など地域の建築業界から講師を招き、課題研究など専門技術の向上を図る。【建築学科】</li> <li>地域人教育の授業から、社会人基礎力の育成を目指し、地域の方との関わりをもとに地域の課題を自分事としてとらえることのできる人材育成を目指す。【商業科】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術の見学で見識を深める事を目的に、学科の3クラスで校外学習を実施した。また、課題研究では、SDGsの17の大きな目標に関するテーマを取り上げて学習を進めるなど、視野を広げることでキャリア教育の充実を図った。継続して実施するための環境づくりが課題である。【機械工学科】</li> <li>県内の研究機関の見学や大学の出前授業をとおして電子機械分野の先進的な研究開発に触れ、専門性を高めるとともに創造性や将来への希望を喚起した。【電子機械工学科】</li> <li>通年朝補習を行い統合後初の受験三種に1名が合格した。また、地元企業の卒業生による第一種電気工事士試験対策を行い、6名が合格できた。【電機電子工学科】</li> <li>資格試験対策として、長野県測量設計業協会および、建設業協会の試験対策講習会に参加し、資格取得に向けた意識向上を働きかけた。【社会基盤工学科】</li> <li>建築士会の協力で課題研究授業のワークショップを実施し、作品の成果について講評をいただき、専門技術の向上を図ることが出来た。地元の技術者に支援していただき多くの講習会、講演会を開催することが出来た。【建築学科】</li> <li>1年、2年、3年ともに学年に合わせた地域への課題発見を行い、課題解決能力を育成することができた。【商業科】</li> <li>コンソーシアムや地域の企業の協力のもと講習会及び講演会が実施できたことにより、専門性を高められたほか、技術者としての心構えを学ぶことができた。NIE研究指定校（1年目）となり、2年生「地域ビジネスと環境」では全クラスにて新聞を活用した授業を展開でき、各科の専門性に關わる時事的な課題を発見することができた。【地域協創係】</li> </ul> |
|   | 3 総合技術教育の推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域協創スペシャリスト」を育成するための探究学習プログラム「地域協創教育『虹』」の充実を図る。具体的にはコンソーシアムにおける連携に同窓会も加えるなど強化を図るほか、NIEを各学年の学習に組み込むなどし、探究する力や協創する力の向上を図る。</li> <li>他の総合技術高校との連携を深め、情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化・発展を図る。</li> <li>「地域協創スペシャリスト」を育成するために開始した普通科目内による1年生「協創教育基礎」、学校設定教科「総合技術」に設定される2年生「地域ビジネスと環境」、3年生「地域活性プロジェクト」を総合技術高校における探究学習プログラム「地域協創教育『虹』」と銘打ち、競争力や課題解決力の向上を図る。</li> <li>地域に根差した課題研究に取り組む。</li> <li>他の総合技術高校との連携を深め、情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化・発展を図る。</li> <li>全校課題研究発表会の内容の充実を図り、本校の特色ある教育活動を企業や地域に向けて発信する良い機会と捉え効果的なPR方法について工夫する。</li> <li>12月に開催する「地域人教育成果発表会」において、1年間ご協力いただいた地域の方々にも成果を伝えることができるよう、日々の活動を意欲的に取り組むとともに、発表の力を身に付けさせる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域協創教育『虹』」において、地域課題を共通教科の視点から考察できたほか、工業・商業の視点からも考察することができた。3年生では、統合創立10周年記念式典に関する各種制作、生徒発表を取り扱う中で、地元企業との協働や学科を横断した学習ができた。授業後の5段階による自己評価の平均値は、協創力(4.7)、探究力(4.7)という高水準な結果が表れた。【地域協創係】</li> <li>全校課題研究発表会は4年ぶりに企業および来賓、中学生など総勢80名ほどを招いて実施した。3年生は研究内容を説明し、また内定企業の方を案内しながら、地域と交流でき、PRが図れた。【キャリア学習係】</li> </ul>   |
| 4 進路指導の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した指導体制の下、進路希望調査・面談により生徒・保護者の進路希望を把握し、様々な行事を通じて進路意識を高める。</li> <li>進学希望者、就職希望者に対する補習・面接指導を全職員の協力によって実施し、生徒個々の進路希望の実現に向けた支援を行う。</li> <li>新しい入試制度や、他校の指導事例に関する情報収集を行い、より効果的な指導を行えるようにする。</li> <li>「キャリアパスポート」のシートや学習支援サービスなどを活用し、自分の在り方や職業人としての生き方を構想し続ける力を育む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>建設業協会や学科間で連携しながら、全校課題研究発表会に向けて生徒と教員が課題を調査発見し考察しながら課題研究に取り組んだ。また、学科独自の発表会を設け課題の成果を発表し、広くPR活動を行った。【社会基盤工学科】</li> <li>3学年全員に4月から面談を行い、意識喚起や希望の調整を行った。求人票をタブレットで閲覧できるようにし、2年生も秋から企業研究ができるようにした。就職希望者への面接指導を全職員の協力で複数回実施できた。総合型選抜でも基礎学力や思考力が求められており、早い段階からの学習支援が必要である。専門外(医療・家政・他)の進学希望者に対する標準的な指導方法について、経験を蓄積していきたい。【進路指導係】</li> </ul>  |   |
| 学校づくり   | 1 安心・安全な学校づくり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を目指す。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策をとりながら諸活動を進めていく。その際、自粛等が生徒の心身に与える影響を最小限に抑えるため、きめ細かな健康観察により生徒の状況の把握に努めるなど、専門機関との連携を含めた組織的な対応を学校全体で行った。</li> <li>様々な教育活動をおとして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にできる態度を育む。</li> <li>職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内での支援体制を強化する。</li> <li>日常の学校生活の中で、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にできる教育を推進していく。さらに必要に応じて、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し生徒の自己理解を深めていく。</li> <li>クラブ活動や生徒会活動に生徒自身が主体的に取り組む、教員や仲間とのかかわりの中でコミュニケーション能力を高める。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの感染拡大に際して、学年や教科と連携した対応を行った。【教務係】</li> <li>自殺予防研修会を開くことができた。また、教育相談委員会を定例で開催し、発生事案や生徒が抱える問題などに対して学校・家庭・SC・SSW・医療機関が連携しながらチームで迅速に対応することができた。【教育相談】</li> <li>危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を組織的に行うためのシステムづくりをした。職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整えた。また、SC(スクールカウンセラー)や、SSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化した。様々な教育活動をおとして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を高め、人との関わり合いを大切にできる態度を育んだ。定期的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、生徒の自己理解を深め、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にできる教育を推進した。新型コロナウイルス感染症対策をとりながら諸活動を進めた。その際、自粛等が生徒の心身に与える影響を最小限に抑えるため、きめ細かな健康観察により生徒の状況の把握に努めるなど、専門機関との連携を含めた組織的な対応を学校全体であった。【安全衛生、学校保健】</li> </ul>   |
|   | 2 環境美化の推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題に対する全校生徒の意識向上を目指し、美化委員会およびISO委員会の自主的な取り組みを職員全体で支援する。</li> <li>美化委員会・ISO推進委員会が中心となり校内の清掃美化を全校生徒に働きかけ、環境美化に努める。また、ゴミの分別の徹底を通じ規範意識も身に付けさせる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会と職員の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図った。環境問題に対する全校生徒の意識向上を目指し、美化委員会およびISO委員会の自主的な取り組みを職員全体で支援した。【ISO美化係】</li> </ul>  |
|   | 3 組織的な学校運営   | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度実施の新指導要領に基づく新たな教育課程へのスムーズな移行を目指す。</li> <li>令和4年度1年生からの3観点学習評価の適用に向けて、関係する諸課題に対して各部署で検討し連携をとりながら準備を進めてゆく。</li> <li>校務支援システム(C4th)の運用を通して出欠管理や考査情報管理等、効率的な業務遂行を目指す。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴う学校運営上の諸課題について係や学年が密接に連携しながら適切な対応が取れる様な態勢を整える。</li> <li>生徒募集と入学選抜のあり方について現状の分析と今後の課題を検討し、関係の分掌が連携を取りながら見直しを行っていく。</li> <li>総合技術高校として発足してから10年が経過し、新たな取り組みの方向性に沿いながら運営上の諸課題の解決に取り組む。</li> <li>本校の教育活動状況の地域への積極的な発信を図る。</li> <li>生徒1人一台端末(BYOD)の活用について、関係部署で検討を進める。</li> <li>安全運転、わいせつ行為、体罰、個人情報について研修等を行い、非違行為の未然防止に努める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>3観点評価の適用に向けて、授業担当者間で連携をとりながら授業および定期試験の準備を行うことができた。【商業科】</li> <li>校務支援システム(C4th)の運用に当たり、各種情報の入力方法についての校内規定の整備を情報処理係と連携して行った。職員会議等の効率化に関する取り組みを行った。また、職員による中学校訪問と進路講話の生徒発表を各専門学科の協力により実施することができた。【教務係】</li> <li>3観点学習評価について年度途中から見直しを行い、評価方法や基準について検討した。【キャリア学習係】</li> <li>魅力的な教育課程となるよう令和4年度以降入学生の3年次の選択科目を一部変更した。3観点学習評価については引き続き課題を整理し、より良い評価となるよう検討を進める必要がある。【教育過程係】</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策を含む学校運営上の諸課題について、係や学年が密接に連携しながら状況に応じた迅速な対応が取れる様な校内態勢を整えた。【安全衛生、学校安全】</li> </ul>  |